

# 在日コリアン学生に奨学金の恩恵を

受給者の声

## 公益財団法人在日朝鮮学生支援会の三期末の活動

### 2013年度は東京韓国学校高等学校の学生にも給付

在日朝鮮学生支援会(以下、支援会)は、在日コリアン学生の就学を財政的にサポートし、朝鮮半島と日本の友好親善に寄与する人材を育成することを目的に、二〇一一年七月に設立された。二〇一二年二月には内閣府より「公益財団法人」としての認可を受け、同年六月には新寄付税制に基づく「税額控除」適用法人としての証明も受けた。

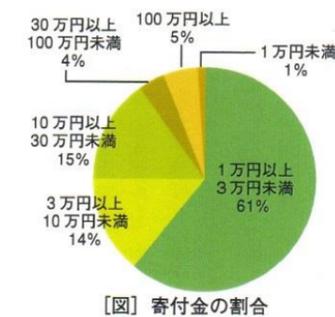
現在、在日コリアン学生の学父母は言うに及ばず、特に「高校無償化」制度からの対象排除、地方自治体による各種補助金・助成金の相次ぐ停止・削減



正木健雄議員(日本体育大学名誉教授)が今年度の高校生受給者に奨学金を手渡している。(2013年11月29日)

により、民族学校に子供を通わせる学父母の経済的状況はいつになく困窮しており、その負担は日を追って大きくなっていく。制度的に奨学金の恩恵を受けられない学生を含めて、このような在日コリアン学生の学びの権利を擁護するため、支援会では二〇一一年度と二〇一二年度の二期にわたって高校生、大学生、大学院生50名に合計1,332万円の奨学金を支給してきた。今年度は二〇一三年十一月二日に選考委員会、同月二七日に理事会を開き、朝鮮高校、東京韓国学校の高校生35名を含む51名を奨学生として決定し、合計972万円の奨学金

を支給した。支援会の行なうすべての事業は、在日コリアン学生の健全な育成、国際性豊かな人材の育成を目指している。そのようなことから、奨学事業とともに、朝日の学生たちによる国際交流事業への助成も継続して行なっており、二〇一四年度からはその規模をより拡大させ、対象を公募して助成活動の幅を広げていく。また、スポーツや芸術の分野でも、世界や日本、在日社会で活躍する将来性のある学生たちを対象とした、トップアスリート・トップアティーリストの人材育成事業にも積極的に助成を行なうことを予定している。



二〇一一年度、二〇一二年度の二年度に個人、法人、団体、集金名で寄せられた197件の寄付金の内訳は、左の図表のとおり。一件あたり3万円以下の寄付金が過半数であり、10万円未満の寄付金で全体の約8割が占められている。特定、少数の大口寄付者の力で事業が運営されているのではなく、裾野の広い、多数の小さな良心、善意により支援会の事業が支えられていることが見て取れる。二〇一三年度は募金目標を1,400万円としている。

## 世界中のコリアン同胞をはじめ、海外からも支援の手が



マラ・パーハイデン・ヒリアード 国際人権弁護士  
ブライアン・ベッカー 「反戦反人種差別行動」(ANSWER)事務総長  
ミシェル・チョストフスキー カナダ・オタワ大学名誉教授  
ウィリアム・ラムゼイ・クラーク アメリカ合衆国 第66代司法長官

Mara Perhegyi-Hieland Brian Becker Michel Chostoufsky Ramsey Clark

こんにちは、在日コリアン学生たちへの支援の輪は、日本国内にとどまらず、国際的にも大きな広がりを見せている。

2013年8月2日、国際シンポジウム参加のために来日した外国の賓客たちと支援会の役員が会談を行なった。

席上、朴点石常務理事は、支援会が設立された背景と経緯、活動の現況と意義について説明した。

クラーク氏は、在日コリアンの人々が民族にとっての教育の重要性を深く認識し、異国の地でも自らの言葉と文化を保存してきたことに驚きを禁じ得ないとし、そのような正

義のたたかいに敬意を表すると述べた。そして、人類史にも稀なこのような取り組みに自らも志を同じくし、今後アメリカやカナダで支援会の活動を広く知らせていきたいとした。同席したメンバーもこの意見に同意し、四人が各自、意思表示としての署名を行なった。



代表理事 朴英雄

**より一層の努力と協力を**  
今年も支援会に送られてきた申請書類を読みながら、多くのことを考えさせられた。先ず、さまざまな困難にもかかわらず子供に民族教育を受けさせるため必死に努力する学父母の熱い想いに大きな感銘を受けた。また、日本の学生支援機構や朝鮮奨学会の恩恵を制度的に受けられない学生たちのために、もっと早く支援財団を立ち上げるべきであったとも考えた。正直に言えば遅い出発ではあったが、それでもここまで来たことに安堵と喜びを感じている。  
今年度は応募が多く、申請者全員に奨学金を支給することがかなわなかった。書類だけを見ると、全員に奨学金を支給してしかるべきであった。これからわれわれがもっと奮発して、広く協力をいただきながら、一人でも多くの「ウリ学生」に愛情の手が届くよう努力したい。

## 公益財団法人 在日朝鮮学生支援会

〒187-0032 東京都小平市小川町1-700  
Tel. 042(346)0520 <http://zainichisienkai.or.jp/>

三菱東京UFJ銀行 鷹の台出張所  
(普) 0039619

公益財団法人在日朝鮮学生支援会



金美蘭 神奈川朝鮮高級学校 3年生

私は小6の学科目を通じて、民族の歴史に興味を持つようになった。そのときに教えをいただいた先生をとても尊敬している。大学に進学して本格的に歴史を学びたいと希望していたが、家庭の経済状況が苦しい中で正直悩みが多かった。奨学金のおかげで、勉強に専念できることが何よりもうれしい。



金聖羅 朝鮮大学校 教育学部教育学科

私は、朝鮮高校在学時に貴団体の奨学金をいただいた。私の高校3年間は、高校無償化制度の開始に期待を持ちながら、結果は無惨に裏切られた時期とちょうど重なった。貴団体からの奨学金を全額学費にあて、一度は断念した大学進学も果たすことができた。



白宗徳 専修大学大学院 経営学研究科 修士課程修了

私は大学院で環境経営学を専攻し、研究を続けている。二酸化炭素の排出制限など世界的な関心事である環境問題を解決することが、企業利益へと繋がっていくような経営のありかたを模索している。奨学金を活かして博士課程への進学準備を進め、研究活動により一層精進していきたい。